

勿凝学問 297

多数決、民主主義、集合的意思決定考
はたして民意、団体の意思とは？

2010年4月4日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

僕のゼミに一年ほど在籍した学生が、もし、「民意」というような言葉を軽々しく使うと、「全員一致の多数決で決められているのならばまだしも、君はその民意をどういうふうにして知ることができたのか？」と叱られる。今日は、そういう話題である。多数決という意思決定過程を経て、民意とか団体の意思とかを抽出するのは、なかなか厄介な問題をかかえているのである。そういう、集合的意思決定過程まで研究の視野に入れるのが、僕の言う政治経済学である。

いま、ある組織のトップの候補者、 α 、 β 、 γ がいるとする。投票の結果は次で、 α が選ばれたとする。

α 131票
 β 118票
 γ 107票

ここで仮に、上位ふたり α と β の間での決選投票が行われたとする。結果はどのように予測されるか？

言うまでもなく、結果を読むはずがない。

では、次の情報が追加されたら、どうなるか。

α が推薦した、ナンバー2候補3人 A、B、C

β が推薦した、ナンバー2候補3人、D、E、F

γ が推薦した、ナンバー2候補3人、D、E、F

推薦なしのナンバー2候補 G

つまり、トップを選ぶ選挙で2位、3位となる β と γ が推薦したナンバー2候補は、3人とも同じD、E、Fとする。

この時、トップの選挙で α が決まった後のナンバー2選挙の結果、 α が推薦したA、B、Cは上位3人に入ることは出来ず、ナンバー2の3人は、 β 、 γ が推薦したD、E、そして

推薦なしの G が決まったとする。

さて、こうした条件下、トップを決める選挙で、 α と β の間での決選投票が行われたとすれば、結果はどうなると予測されるか？ その時、決選投票がない場合に、 α が選出される意味は？ さらには、ここで当然、トップの選挙において最後に過半数の支持を得た者を決める決選投票がない多数決の下で、なぜ、 β と γ は、トップの選挙の際に一本化を図らなかったのかという疑問が出てくる。ある新聞には、「票読みが甘かった」とあるが、他に、どのような仮説を立てることができるだろうか？

多数決、民主主義の意味を考えさせてくれる、良い教材となる事例であるように思える。

なお、トップが決まれば、ナンバー 2 は、自動的にトップが推薦した 3 人に決まる方式を、キャビネット選挙と呼び、今回の選挙から、このキャビネット選挙は廃止されている。

追記

上述の日医会長選が行われた 2010 年 4 月 1 日から 1 年 4 か月後に行われた民主党の代表選挙では、5 人が立候補している。所属国会議員による第 1 回投票で過半数に達するものがおらず、上位 2 名による決選投票が行われ、結果、第 1 回投票で 2 位の候補者が逆転勝利をおさめている。

つまりは、日医と民主党が、日医方式同様に決選投票を行わない方式であれば、日医からは原中勝征氏、民主党からは（増税反対の小沢一郎氏が推薦する）海江田万里氏（有効投票数の 36% を獲得）が決まり、民主党方式同様に決選投票が行われる方式であれば、森洋一氏と野田佳彦氏（社会保障・税一体改革派）に決まっている可能性が高い。ことほどさように、集合的意思決定のあり方というのは、選挙の結果が示すことになる民意とか団体の意思というものに大きな違いをもたらし、その後の社会の行く末に大きな影響を与えるのである。

なお、日本医師会は、2012 年の会長選から決選投票を行う方式に変更している。

ちなみに、2012 年 9 月 26 日に行われた自由民主党総裁選挙でも、第 1 回投票結果で過半数に達する者がおらず、上位 2 名による決選投票が行われ、結果、第 1 回投票で 2 位の候補者が逆転勝利をおさめている。しかし、この場合の第 1 回投票は議員票、地方票を含めて行われるものであり、第 2 回投票は国会議員により行われるものである。

少し詳しく

2010 年 4 月から 2 年半経った 2012 年 9 月 26 日に行われた自由民主党総裁選挙では、5 人が立候補している。第 1 回投票結果で過半数に達する者がおらず、上位 2 名による決選投票が行われる。結果、第 1 回投票で 2 位の候補者が逆転勝利をおさめる。

つまりは、日医と自民党が、日医方式同様に決選投票を行わない方式であれば、原中勝征氏と石破茂氏が決まり、自民党同様に決選投票が行われる方式であれば、森洋一氏と安倍晋三氏に決まっていることになる。